令和6年度学校評価項目の達成状況について

【自己評価の基準】　A：よく取り組まれており、成果が出ている。　C：取り組まれているが、更なる工夫（改善）が必要
B：遅滞なく業務が進められており、問題ない。　D：取り組まれていない。

1　教育活動に関すること

項目		令和6年度目標値	実績（令和7年2月7日現在）	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
（1）地域農業の中核的担い手となる農業経営者及び農業を支える多様な人財の養成	①入校生の確保に向けた周知活動の充実強化	・次年度入校生の定員充足率70%以上（35人以上） ・オープンキャンパス（2回） ・県内在校生出身高校（29校）訪問、高校進路ガイダンスと進路相談会への出席 ・ホームページやSNSによる情報発信（回数：月2回以上）	・次年度入校生は38名の見込み ・8月25日、10月26,27日に実施し、参加者数は86名（前年104名）。うち生徒は51人（前年46人）参加し、うち38人（前年31人）が受験 ・在校生出身校を中心に県内39校、県外1校の高校を訪問。畜産課程の学生確保に向け畜協4ヶ所を訪問。進路ガイダンス・相談会に17回参加 ・SNSによる情報発信39回で、今後7回の更新予定（前年45回）	・次年度入校生の定員充足率が76%と目標を達成 ・オープンキャンパス参加者数がR5と比較して減少したが、高校訪問や進路ガイダンスによる断続的なPRを継続	・オープンキャンパスの実施時期の見直し ・Facebook以外のSNSによる情報発信の検討	自己評価判定：B ・次年度入校生の定員充足率が目標を達成 ・就農、農業関連業種への就職者割合が目標未達 ・魅力あるカリキュラム、海外研修は職員、学生ともに高評価	自己評価の判定に異存はない。 ・頑張って実施していると思う。遠慮した評価となっている。 ・定員充足率の目標を達成し、頑張っている。 ・若者の就農者を増やすためスマート農業の実習を充実させて欲しい。 ・プロジェクト学習で及第点と回答した職員割合が低いと思う。 ・農作業事故について、安全確認を徹底して欲しい。 ・営大の魅力として、ドローン等の資格取得ができることをPRして欲しい。
	②新規就農者及び農協等農業関連業種従事者の確保	・就農と就職に分けた就農ビジネス講座及び農業関連企業説明会を実施。（学生の新規就農者と農業関連業種従事者の割合80%以上）	・会社説明会を6社実施 ・就農、農業関連業種への就職は76%(31名)。内訳：就農9名(うち雇用就農4名)、農業関連22名、研修1名、他産業2名、その他7名 ・1年生を対象とした就農ビジネス講座(3月実施)は、就農と就職に分けて実施予定	・就農と農業関連業種への就職者割合が76%(31名)と目標80%以上(33名)を未達	・親元就農、独立自営就農に向けた学生向けの進路指導 ・農業関連業種の会社説明会の積極的な開催		
	③魅力あるカリキュラムの充実	・教育計画の見直し検討及びR7年度教育計画の作成 ①環境保全型農業や輸出促進など時代や社会のニーズに対応した科目の設定 ②1学年での農家実習や雇用就農者向けの研修等の実践的学習の充実 ・先進技術等を取り入れた授業の実施 ①りんご高密植わい化栽培に関する授業の実施 ②デジタル技術及びスマート農業に関する授業の実施 ・地域や関係機関と連携したプロジェクト学習の実施（各課程1つ以上）	①環境保全型、輸出促進に関する授業は、既存科目(環境保全農業概論、海外農業と食料)の教育内容を変更して実施 ②1学年の農家実習について、次年度に1学年を対象に農業法人等へのインターンシップを実施予定 ①JA全農あおもりと連携してりんご高密植わい化栽培実践農場を設置し、講義・実習を7回実施。通年で栽培管理、生育状況調査を実施。 ②親牛の発情兆候や分娩兆候を温度センサーで監視する牛恩恵を導入し、デジタル技術を学習 ・畑作園芸課程3課題、果樹課程2課題、畜産課程1課題を実施	・カリキュラムに関する目標を達成 ・講義、カリキュラムについて、及第点と回答した割合が、学生は前年と同様に90%以上、職員は74%(前年47%) ※及第点は、学生が良い・やや良いと回答した割合の合計、職員はよく取り組んでいる・遅滞なく業務が推進と回答した割合の合計 ・プロジェクト学習は、職員の45%が及第点と回答(新項目のため前年なし)	・1学年のインターンシップを円滑に実施できるよう関係者と調整 ・管理研修棟及び現場教室等に整備したWi-Fi設備、学生に貸与するタブレット型PCを活用した授業・実習の実施		
	④海外研修の実施	・あおもり農業グローバルチャレンジ（提案型海外研修）への応募（採択時の海外研修実施）	・県事業に採択され、10月7日～13日にオランダの施設園芸等の視察研修を実施（畑作2年3名、畑作1年2名、引率職員2名）	・職員の81%が及第点と回答(新項目のため前年なし)	・次年度も継続実施		
	⑤社会人向け研修による新規就農者の確保	・「あおもり農力向上シャトル研修」（シャトルコース、リカレントコース）を開講 ・「野菜1DAYセミナー」開催（20回）	・シャトルコース2名、リカレントコース3名（前年計8名） ・野菜1DAYセミナー20回開催 ・刈払機、チェーンソー、大特、けん引、フォークリフト等の受講者延べ20名	・受講者数が定員（ｼｬﾄﾙ5名、ﾘｶﾚﾝﾄ20名）に対して大幅に少ない	・農業支援センター、農業普及振興室と連携した支援の強化		
（2）安全・安心な学校づくり	①緊急事態等に対する危機管理体制の整備	・防災訓練（1回）、夜間防災訓練（1回）及び救急救命講習（1回）の実施 ・BCP、実習における安全マニュアル及び危機管理マニュアルの運用及び随時見直し	・防災訓練（5/23）、夜間防災訓練及び救急救命講習（6/20）を実施 ・地震における安全マニュアル及び危機管理マニュアルの職員への説明(4/3) ・大規模地震を想定したマニュアルの見直し	・職員の33%が更なる工夫が必要と回答 ・近年の大地震を想定したマニュアルの見直し	・災害時に学生、当直が対応できるようにマニュアルを見直し	自己評価判定：C 農作業事故及び学生の交通事故が発生	
	②農作業事故の未然防止	・実習開始前の農作業安全の確認及び農業機械操作中のヘルメット着用率100%による学生及び職員の農作業における事故発生0件	・各課程で実習時の作業安全に関するガイダンスを実施 ・実習前の安全確認、全員にヘルメットの着用を徹底	・職員1名が農作業事故(高所作業台車で枝切り作業中に落下)	・作業開始前の安全確認、ヘルメット着用の徹底の継続		
	③学生の安全運転の指導徹底	・交通安全教室の実施（2回）やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・交通安全教室の実施（4/25,12/2） ・夏季休業、冬期休業前の終業式において安全運転の注意喚起	・学生による交通事故が6件発生	・学生に対する安全運転、法令遵守の徹底		
（3）職員の学生指導力の向上	①学生指導に係る情報の共有	・職員間で学生指導に係る情報を共有するため、職員朝会(毎日)、課長会議（毎週）、指導職員会議(月1回)を実施	・計画どおり実施、指導職員会議等で学生指導状況の共有	・職員の63%が及第点と回答	・学生の指導情報の共有を継続	自己評価判定：B ・学生指導情報の共有 ・職員の指導力向上が必要	
	②学生指導に関する職員の資質・知識向上	・職員の資質と知識を向上させるため、学生指導に係る職場内研修会の実施 ・指導力スキルアップのための研修会への参加(延べ15人以上)	・学生指導に係る留意点に関する研修(4/4)、特性ある学生への支援に関する研修(7/23,30)に実施 ・各種研修会に17回（延べ20人）参加	・職員の41%が更なる工夫が必要・取り組まれていないと回答	・指導職員のスキルアップに向けた研修の継続		

２　地域との連携に関すること

項目	令和6年度目標値	実績（令和7年2月7日現在）	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
（1）地元のイベント・スポーツ大会等への参加	・地元イベント等への参加、管内朝野球大会への参加	・七戸町内の朝野球大会に学生17名が参加 ・七戸町ナイターバトミントン大会に学生2名が参加 ・しちのへ秋まつりの仮装大会は直前に体調不良者が多数出たため不参加	・職員の78%が及第点と回答 ・学生の45%が部活動に参加	・学生に対する適時の情報提供及び意識醸成	自己評価判定：B ・学生の地元イベント、スポーツ大会への参加が増加 ・農作業体験の受入団体数、人数の減少	自己評価の判定に異存はない。 ・その他の意見なし。
（2）農業関連高校との連携	・令和7年度入校生の円滑な学生指導のため、高校訪問し情報収集 ・農業関係高校への授業・研修への参加 ・農業高校OB職員による授業の実施	・学生指導に関する情報収集を書面によりを実施 ・農業概論の授業を実施(1名)	・職員の51%が及第点と回答	・農業関係高校と共通する研修等の合同実施の検討		
（3）農作業体験の受入れ	・児童・小学生・中学生、教員等対象に、食や農業への関心・理解を深めることを目的に、本校施設を活用した見学及び農作業体験学習の場を提供	・3団体（3日）、76人を受入（前年6団体、256人）	・職員の78%が及第点と回答 ・夏場の高温対策のため夏季受入人数を見直した結果、受入団体数の減	・夏季の農作業体験受入の期間、人数の検討 ・学生を主体とした受入への対応		
（4）産直施設「七彩館」との連携	・直売所「大ちゃんの店」の開催、プロジェクト研究に係る消費者アンケート調査等の実施	・直売所「ダイちゃんの店」を開催（5回） ・プロジェクト研究で消費者ｱﾝｹｰﾄ等を実施（3回） ・6次産業化コースは、プロジェクト学習で開発した加工品を常設販売（1商品、10～12月）	・職員の85%が及第点と回答 ・学生が販売やアンケート調査等のスキルを習得	・七彩館や地元関係者が実施する地域イベントとの連携強化		

３　アクションプログラム進行管理に関すること

項目		令和6年度目標値	実績（令和7年2月7日現在）	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
（1）魅力あるｶﾘｷｭﾗﾑの充実	上記1(1)②～④と重複のため省略					自己評価判定：B ・地域との連携・交流につながる課題解決ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを実施 ・情報通信環境を整備、計画に基づいた改修・更新 ・SNSによる情報発信の検討が必要	自己評価の判定に異存はない。 ・畜産課程の次年度入校生数が2名の場合、農場管理が大変になることが心配である。 ・防犯カメラについて、不審者や盗難対応だけでなく、クマ等の野生動物被害も多くなっているので、設置を進めて欲しい。
（2）プロジェクト学習の充実・強化	地域との連携・交流に繋がる課題解決プロジェクトの検討	・実施方法の検討及びR7年度教育計画への反映 ・プロジェクト学習の実施	・りんご高密植わい化栽培は、JA全農あおもりによる講義を7回、校外研修1回、プロジェクト1課題を実施 ・プロジェクトは、畑作園芸課程3課題、果樹課程2課題、畜産課程1課題を実施	・プロジェクトを6課題実施 ・職員の45%が及第点と回答	・課題解決プロジェクトの実施方法と教育計画への反映方法の検討		
（3）指導職員の在職期間の確保		・一定の在職期間の確保を農林水産部人事担当と協議	職員の希望も配慮しながら職員の在職について協議を実施	・農林水産部人事担当に対して要望	・民間の活用連携も含めた職員体制と農場管理のあり方を検討		
（4）農場管理者の確保		・農場管理に必要な職員数の確保のため人事課と協議	必要職員数の確保を農林水産政策課人事担当を通じて要望				
（5）BCP(事業継続計画)や危機管理マニュアルの適時見直し		上記1(2)①と重複のため省略					
（6）家畜伝染病対策の強化		・防疫エリアを出入りするトラック等について、動噴による消毒を徹底	・家畜伝染病対策の消毒方法を家畜保健衛生所と検討し、動噴による消毒を継続	・消毒を徹底して実施	・次年度も継続実施		
（7）防犯カメラの整備		・R8実施に向けて防犯カメラの必要な性能及び設置場所について検討	・今年度は未実施。R8年度当初予算で要求できるように次年度に検討	・未実施	・防犯カメラの性能・設置場所の検討		
（8）農業青年との交流		・青森県4Hクラブ連絡協議会が主催する各種大会への参加 ・各地域県民局や市町村などが開催する新規就農者対象のセミナー等への参加	・県農業青年交流会、県青年農業者会義に学生8名が参加 ・南部町で開催される全国サクランボ研究協議会青森県大会に果樹課程1年が参加	・就農予定の学生と4Hクラブ員の交流を実施	・学生の積極的な参加		
（9）学習活動のSNS等による情報発信		・学生も参画した情報発信体制の検討	・学生による情報発信を行っていくため、学生自治会に委員会設置を検討	・保護者の40%がSNSを見ていない	・学生自治会と運営方法の検討		
（10）農業高校との交流促進		1，2年生対象の学校説明会の開催	・活用予定の国庫補助事業の予算配分がなかったため、今年度は中止	・今年度は中止	・国庫補助事業の予算確保		
（11）情報通信環境の整備		・Wi-Fi環境の整備 ・タブレットPCの導入	・3月中旬に完了予定で実施中	・通信環境及び学生使用のタブレットPCの整備完了	・整備された通信環境、タブレットPCを活用した講義、実習の実施		
（12）整備・廃止する施設、機械とその優先順位付け	営農大学校長寿命化整備計画の推進	・ガラス温室B棟、選果貯蔵庫、旧乳牛舎の改修。体育館改修に向けた実施設計	・ガラス温室B棟、選果貯蔵庫、旧乳牛舎を改修、体育館の改修実施設計を作成し次年度改修	・計画どおり実施	・計画に基づいて改修、更新を実施		
	主要備品更新計画に基づく機械・設備の更新	・果実用重量選別器、草刈機、運転技能講習トラクターを更新予定	・計画どおり果実用重量選別器、草刈機、運転技能講習トラクターを更新				
（13）スマート農業機械のリース計画及び無人ヘリコプター廃止の検討		・導入するスマート農業機械のリース契約検討及び予算確保 ・農場で使用している無人ヘリコプター更新中止に係る処分費用の予算要求	・トラクタの無人操舵システム導入をR6国事業に申請中 ・無人ヘリコプター更新中止に係る処分費用がかからないことを確認し、予算対応なし	・補助事業活用による購入で調整中	・機械、設備導入時にのリース・購入の検討、補助事業の活用検討		
（14）民間企業や試験研究機関との連携強化		・農機具メーカーによるスマート農機の実演など、実物を用いた講習・実習の実施 ・民間企業や試験研究機関等との共同研究の実施	・みちのくクボタと連携してGPS田植機の実演研修、みちのくクボタ及び雪印種苗と連携して草地更新の実演研修の実施 ・りんご高密植わい化栽培は、JA全農あおもりと連携して実践農場を設置	・関係機関と連携した実習等の実施	・次年度も継続実施		